令和7年度事業計画

<基本方針>

設立の目的に基づき、①育成活動事業、②育成支援事業、③社会貢献事業の3つを柱として活動を行う。また、当財団の活動の認知を高めるための広報活動を強化するとともに、当財団の活動を継続していくための安定した財政基盤、人的基盤の確立のため、賛助会員入会の促進、寄付の募集、人的な支援体制の強化を図る。

また、令和8年に当財団設立10周年を迎えることから、記念となる取り組みを行い、これまでの活動の振り返りと整理を行う。

<具体的な計画>

1. 育成活動事業

(1) 無料英語教室「西南一粒の麦 English Academy」

- 今年度は、オンラインによる開催を取りやめ、対面方式による教室を2クラスに増やし開催する。
- 対面方式の授業は、昨年度と同様に上原みち子氏に加え、菅原千恵氏を講師として、毎週火曜日の17時から50分に2クラスの授業を開催する。
- 4月15日にオリエンテーションを開催し、翌年3月10日まで計35回の開催を予定する。

(2) 里親家庭、ファミリーホームで暮らす子ども達応援

- 様々な事情により、実の親と暮らせず、里親のもとで暮らす子ども達に、そういう境遇であっても強く、正しく、逞しく育てられるよう応援する活動を引き続き行う。
- これまで福岡市里親会の集いの場における寿司職人が握る寿司の振る舞い、日頃触れることの少ない体験の場の提供、各家庭への寿司の宅配と取り組んできた。
- 今年度も、引き続き、寿司振る舞いのほか、子ども達が日頃触れることの少ない体験の場を提供する取り組みを行う。その取り組みを通じ、子ども達が将来に向けて考える機会となることを期待する。
- これらの取り組みは、里親会の集いの場において行うほか、当財団主催による機会を設けての実施も計画する。

2. 育成支援事業

ホークスカップ中学生軟式野球大会の支援

- 令和6年度に引き続き、令和7年度（2026年3月開催予定）に第31回を迎える本大会への後援と運営を行っている「銀風会」への支援を継続する。

3. 社会貢献活動

日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議への支援

- イスラエル、パレスチナでは長引く紛争により、イスラエル人・パレスチナ人の間で交流を持つことが難しく、それゆえ相互に偏見が生じ、結果として紛争の解決を困難にする一因となっているという認識のもと、日本において両地域の学生に交流の場を設けることで、対話の実現を図り、また、日本におけるイスラエル・パレスチナ問題への関心の喚起を図ろうとする、大学生によるこの会議の支援を継続する。
- この学生会議が毎年開催している「合同学生会議」については、現時点でその開催時期、場所について確認できていないが、福岡において開催される場合には、全面的な協力ならびに支援を行うとともに、西南学院大学への協力依頼、学生の参加案内にも取り組む。

4. 広報活動の強化

当財団の知名度、活動の認知度を更に高めるため広報活動を強化する。

- ① 財団ホームページの内容を再考し、広報機能の強化と内容の充実を図るためリニューアルを行う。そのための検討チームを事務局内に設置する。
- ② ホームページ以外にSNSの活用、報道機関への情報提供等その他の方法により活動内容を広く提供し認知度の向上を図る。
- ③ 西南学院高校同窓会をはじめ西南学院中学校同窓会、西南学院大学同窓会、学校法人西南学院へ財団の活動情報を随時提供し、財団活動への理解と認知度をあげるとともに支援を依頼していく。

5. 安定した財政基盤の確立

(1) 賛助会員入会の促進

- 当財団の活動を継続していくため、その安定的な財政基盤の構築の一環として、当財団の趣旨や活動に賛同いただける個人、法人・団体を対象にした賛助会員数の増加を促進する。

(2) 寄付の募集

- 賛助会員とならずとも、当財団の趣旨や活動に賛同いただける個人、法人・団体からの寄付を引き続き募集する。

6. 設立10周年事業への準備

- 当財団は、来年、令和8（2026）年5月に、設立10周年を迎える。設立10周年を記念する事業について、以下について具体的な準備を進める。
 - （1）設立10周年記念式典
 - （2）設立10周年記念誌
 - （3）10年間の活動の記録の整理・保存
 - （4）その他10周年記念として相応しい事業、取り組みの企画立案
- 上記の設立10周年を記念する事業の企画、準備を進めるため、「(仮称) 設立10周年記念事業準備委員会」を設置する。